ながやと

渋谷区立長谷戸小学校
令和2年7月号
校長　佐藤　公信

新１年生51名を迎えて

副校長　望月　伸司

６月２９日(月)、令和 2 年度入学式が挙行されました。今年度の新入生は、５１名。はにかむような笑顔がとても可愛らしく、その表情からは、子供らしい元気さと、聡明さを感じました。新入生のみなさん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。長谷戸小学校での毎日を思いっきり楽しんでくださいね。

学校が再開し、子供たちの笑顔と元気な声が学校に戻ってきて思うことは、当たり前のことではありますが、学校は子供たちがいるからこそ存在する意味があり、子供たちの姿があってこそ命が吹き込まれる場所であるということです。学校に子どもたちの姿があるという当たり前のことに、感謝し、感動する毎日です。

小学校は、本来、子供たちが、触れ合い、話し合い、笑いあって、ケンカして、歌って、手をつないで、握手して、みんなで一つのものを使って、共有して、押し合いへし合いの密なる世界です。しかし現在は、様々な制限のもとに教育活動を進めざるを得ない状況です。このような中で、我々はできないことをあげつらって嘆くのではなく、その不自由さの中から知恵を生み出し、柔軟に前向きに対応する力を付けていかなければなりません。これから先、子供たちが生きていく何十年の間、今回の新型コロナウイルスの流行を遥かに超える苦難が待ち受けているかもしれません。その時、事態に翻弄され、ふさぎ込むのではなく、自ら立ち向かう勇気と知恵、そして、自分と社会のために何ができるのかという自立と貢献の精神を身に付けていて欲しいと思います。

現在、学校では、養護教諭が中心となり、全教職員の知恵と力を結集して、感染防止策を策定、実行しています。日中や放課後には、廊下の手すりやスイッチ、教室の机や椅子を懸命に消毒する教職員の姿があります。今月からいよいよ一斉登校となります。本格的な夏に突入する中で、感染症対策だけでなく、熱中症対策にも同時に取り組んでいく必要があります。

課題は山積していますが、今、何ができるのかを子供たちと一緒に考え、挑戦していく、ピンチをチャンスに変えていくことができる学校でありたいと思っています。